

ビジネスシーン 3つの事に気をつけよう

日本では当たり前のことが中国では通用しないことはよくあります。

この資料ではビジネスシーンでよくある日中間の習慣の違いを紹介します。

仕事上でのコミュニケーションを間違えるとそのあと面倒なことに発展することもありますので、
事前に確認しておくといでしょう。

1

一方的な指示

2

謝らせる

3

人前で叱る

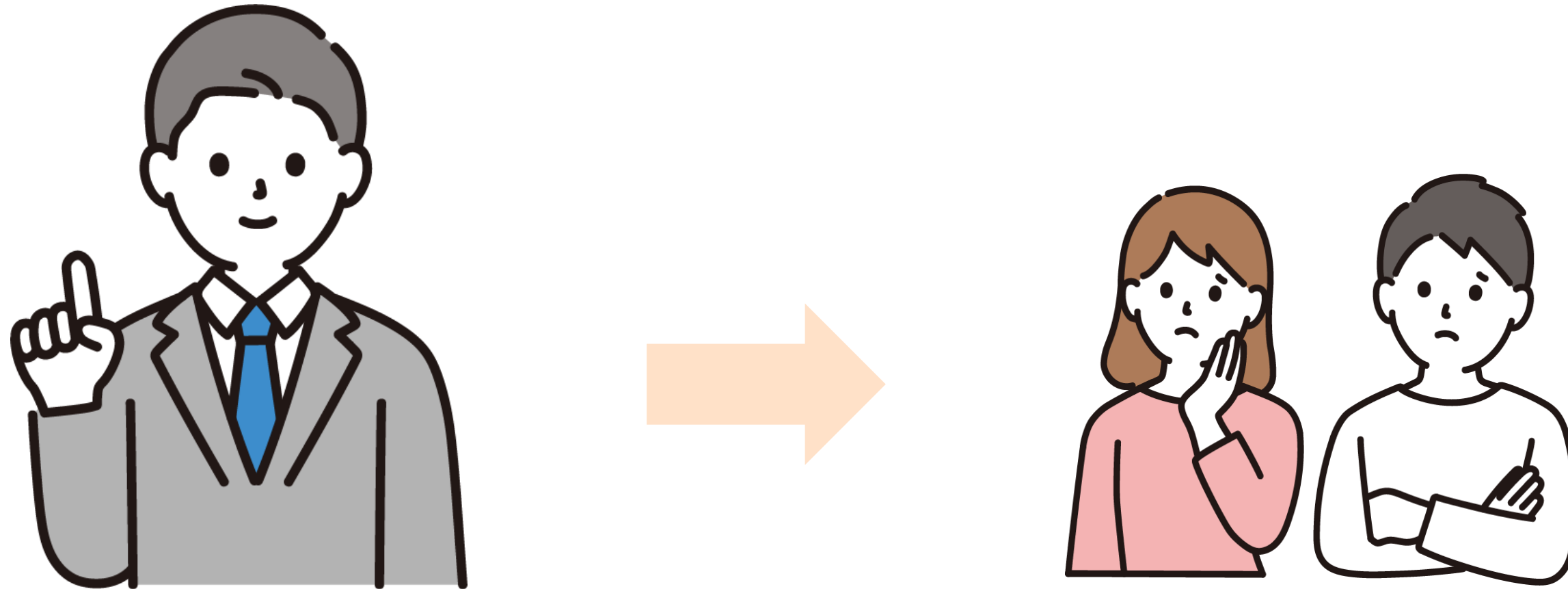
気をつける

3つの事 + a

+a

中国初めての方へ

一方的な指示



指示は具体的に出すのがポイント。中国ではスタッフは日本的な「全体の状況を汲み取り、組織にとってベストなことをする」という考えで働いていない。あくまでいち個人があつて、会社は自分の能力を発揮する場であり、「具体的な指示をもらって、それをこなす」のが中国人の働き方。

よって、下記は通用しない。

「言わなくてもわかるだろう」「自分で考えろ」「言わなくてもわかっているはず」「言ったつもり」

中国で指示出しはどうするの？

抽象



具体

指示は細かければ細かいほどいい。
細かい指示がなければ、我流でやってしまう。
指示が出てないのは、当然やらない。

＜＜実例＞＞

- ・ 小数点以下の数字の扱いをどうするか聞かない。
- ・ 「オフィスカジュアル」 → 部屋着で来る

謝らせる



【中国人スタッフに謝らせるのはNG】
過ちを認めることへの心理的ハードルは日本の比ではない。
よって、中国人に謝らせるのは非常に酷なこと。

＜NG発言＞

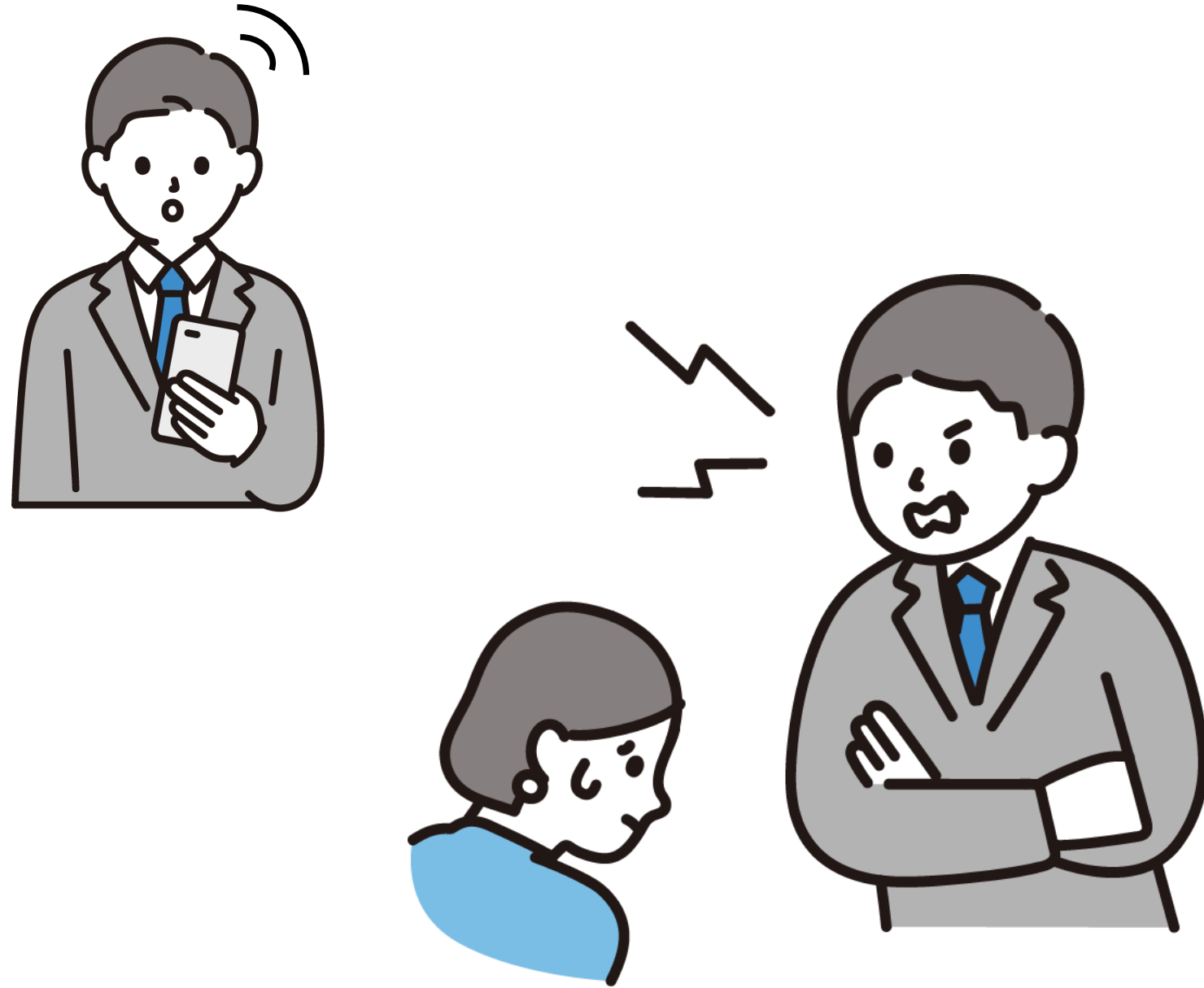
※日本人の上司 → 中国人の部下

「まず、何でも謝ってからだよ」

「謝った方が話しが早い」

「こっちから謝っちゃえよ」

人前で叱る



【人前で叱るのはNG】

中国では人前で誰かを叱ったり、注意したりするということはほとんどありません。中国人にとって、「人前で叱られた＝面子を潰された」ということになります。それは強い恨みとなり、その後の関係にしこりができるでしょう。

＜＜おすすめの叱り方＞＞

怒鳴るのは厳禁、説明しながら、論理的に言う。

何が悪いかを悟らせ、ゴールまで連れて行く。

中国ではどう指導するの？



会議室・個室に呼んで、
1対1の場で一言



食事に誘って一言

+a 中国初めての方へ

Guidance for first-time visitors to China



名刺交換

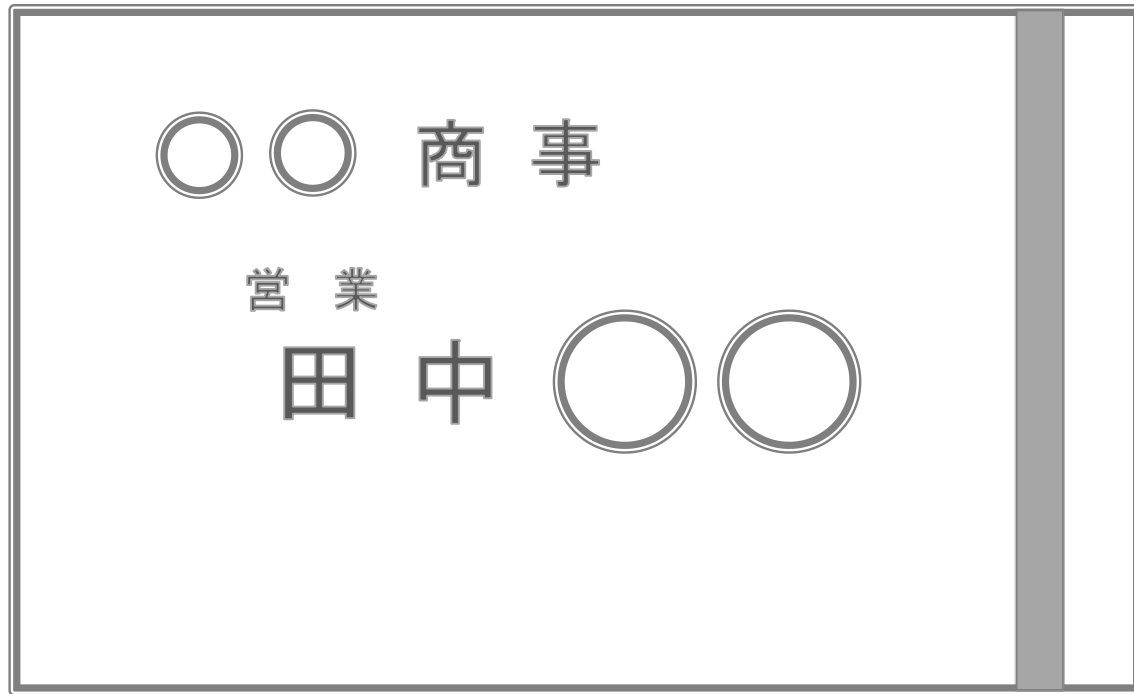


スーツ



緑の帽子

名刺交換



【名刺は片手で】

日本のような名刺交換のルールはない。中国では、片手で気さくな感じで渡す。

※日本人流に渡してもいい。片手で渡されても失礼だと思わなくていい。握手をすることもよくある。

中国では、先ず名前を言い、補足的に会社を紹介する。「名前、会社では〇〇をしています」

地方の役人の場合、肩書が面子になるので、しっかり役職を紹介することもある。

個人対個人の意識を持つ中国人は相手の会社よりも、その人の人柄を知りたがる傾向にある。

スーツ



【スーツの着用】

中国にはスーツを着用する習慣はない。
日本人が中国へいく場合、最初はスーツで問題ないが、雰囲気がわかったら雰囲気に合わせた服を着るとよい。

ジーパンやハーフパンツ、色鮮やかなワンピースで出社することもよくある。
スーツじゃないから、だらしないということはない。

緑の帽子



＜＜注意＞＞

絶対に緑の帽子を被らないようにしましょう。

緑の帽子を男性が被ると、「妻を他の男に奪われた男」という意味になる。
妻の不倫、不甲斐ない男を連想させる。
嘲笑の的になってしまいます。